ワークに登録されています。第2期中期計画期間（2010年～2016年）でも概算要求獲得の努力はしましたが、結果的には特別経費等の予算措置がなくなりました。しかし、分子科学研究所として内部的に機関間の共同研究に対する補助に限って予算を確保し、新規に導入された36台の設備の利用を軸として、装置利用料や旅費等の補助や設備の利用講習会等の補助を続けています。

設備ネットワークでは、参画国立大学に対して予約システムのソースの配布を行っています。各機関で利用しやすいようにシムテムを改良し、学内用のシステム等として利用することができます。第3期中期計画期間（2016年～2022年）の予算は厳しいと聞いていますが、少なくとも設備ネットワークの維持と各機関での予約システム構築への協力は継続しますので、引き続きご活用いただければ幸いです。

（岡野 芳則　記）

国際研究協力事業報告

01　アジア冬の学校

2015年1月13日（火）から16日（金）にかけて、日中韓台の4カ国で毎年順番に開催している「アジアコア冬の学校」が岡崎コンファレンスセンターにて開催されました。今回は「総研大アジア冬の学校」との共催により、例年に比べて規模も大きくなり（講師19名、その他参加者93名）、中国、台湾、韓国、タイ、ベトナムといった多くの国々から参加がありました。

プログラムは、「実験と理論計算」、「新材料のデザインと合成」、「物質科学」、「光分子科学」、「生命科学」の5つのセッションで構成され（詳細はhttp://www.ims.ac.jp/aws14/program.htmlを参照）、台湾で開催された昨年度のスタイルに近いものでした。前半は学生からの質問が少なかったのですが、座長や教員から繰り返し促すことで、中盤から後半にかけて徐々に積極的に手が挙がるようになりました。幅広い分野から参加者が集う学校ですので、学校としてのテーマ設定だけでなく、講師陣の話題提供内容や方法など、改善に向けて検討すべき点が見受けられました。

開催にあたり、講師の先生方、所内の担当委員の先生方、秘書、総研大生の多くの方々に協力を頂きました。この場をお借りし、お礼申し上げます。

なお、次回の「アジアコア冬の学校」は、中国がホストとなる予定で、開催地は北京周辺、時期は2016年1月の第2～3週あたりが候補となっています。

（秋山 修志　記）